



# NetSkateKoban®

## 導入事例： エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社様



- 資産管理の落とし穴
- スムーズに連携
- 4万台の端末管理を実現
- ステップを踏んで導入
- 今後は  
「AdminITy」+「NetSkateKoban®」  
を提案

エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社（以下、NTTコムウェア）様では、自社製品AdminITy（アドミニティ）（以下、「AdminITy」）で、日本全国にまたがる約3万台（2007年当時、現在では約4万台）の端末のセキュリティ管理、資産管理、ライセンス管理を行っていました。しかし「AdminITy」だけでは未登録端末を管理しきれなかったことから、改善策として「NetSkateKoban®」を導入いただくことになりました。

NTTコムウェアサービス事業本部サービスプロバイダ部の源茂氏（写真右）と椋木大介氏（写真左）に、「NetSkateKoban®」導入の経緯と効果、そして今後の展望についてお聞きしました。

### ■ 資産管理の落とし穴

— 「AdminITy」では、端末をどのように管理しているのでしょうか？

「AdminITy」は端末管理をオールインワンで行うソフトウェアです。基本的なインベントリ収集・資産管理機能のほか、ライセンス管理機能、契約管理機能、パッチ管理機能、ウイルス対策管理機能、外部デバイス制御機能などがあり、管理下にある端末のセキュリティ面から資産のコンプライアンスの面まで、しっかりと管理することができます。

— 端末管理において、いま重視されていることはなんなのでしょうか？

現在、企業や自治体の端末管理においては、コンプライアンス面が重視されています。特に、ライセンス違反の防止は多くの企業や自治体で重視されており、「AdminITy」が特に得意としている分野でもあります。たとえば管理下の端末で、利用が許可されていないソフトウェアを使用すると、利用者と管理者に対し警告を発するなど、「AdminITy」はライセンス違反を確実に防止することができます。

— 「AdminITy」だけの管理では、何が問題だったのでしょうか？

「AdminITy」で管理できるのは登録されている端末です。そのため未登録端末が社内にあっても、管理することができません。いくら登録端末をしっかりと管理していても、管理から外れた未登録端末があれば、そこからライセンス違反やウイルス感染等によるセキュリティ事故が発生する可能性があります。

インベントリ管理		
資産管理		
統合資産管理	ソフトウェア管理	契約管理
IPアドレス管理	設備移設・障害管理	USBデバイス制御
セキュリティ管理		
PCポリシー管理		
ソフトウェア配布		

### ■ スムーズに連携

— 未登録端末の問題を解決するために求めた要件は？

未登録端末の自動検知と自動遮断です。「AdminITy」で管理していても、目視で未登録端末を発見できないわけではありませんが、端末が数百台程度ならともかく、数千～数万台もあると発見するのは困難です。それに対応するためには検知と遮断の自動化が不可欠でした。

— どのような製品を比較、検討されましたか？

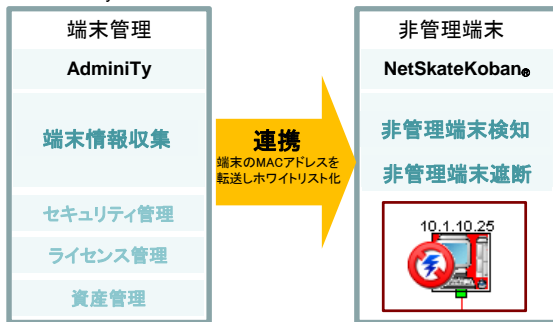
未登録端末の自動検知と自動遮断ができる製品を探しましたが、当時、適応した製品は多くはありませんでした。検疫ネットワーク製品も検討しましたが、検疫ネットワーク製品を導入する場合は、ネットワーク構成の変更が必要で、ネットワーク機器をすべてリプレイスしなければなりません。弊社の場合拠点数が多く、かなりの手間と費用が必要になるため、対象から除外しました。

— なぜ「NetSkateKoban®」を選ばれたのですか？

「AdminITy」との連携をするために必要な、さまざまな要望に応えていただけたからです。

基本的には「AdminITy」が収集した機器情報（Macアドレス等）を「NetSkateKoban®」に転送し、ホワイトリスト化するのですが、ときにインベントリ収集ができない機器があります。たとえばネットワークストレージなどはインベントリ収集ができません。そういった機器は本来接続してはいけませんが、業務上必要な場合は、適切なセキュリティ対策を行ったうえで上司承認を得れば接続することができるように社内運用規程で定めています。「NetSkateKoban®」はそのようなニーズに対応できる「一時許可」という機能を有しており、「NetSkateKoban®」側とスムーズに連携するためのインターフェースを盛り込んでいただきました。サイバー・ソリューションズさんはそういった要望に柔軟に応えてくれました。

■ 「AdminITy」と「NetSkateKoban®」の連携



■ 約4万台の端末管理を実現

— 「NetSkateKoban®」導入でどのような効果がありましたか？

「NetSkateKoban®」を導入してからは、未登録端末は自動遮断されるようになり、事前に登録しなければ使用できなくなりました。これまでは登録するルールであっても登録せずに使うケースが散見され、AdminITy未登録端末を排除しきれなかったのですが、この自動遮断のおかげで未登録端末を積極的に登録するようになりました。



「いかにして全端末を管理下に置くか？」が、端末管理ソフトウェアの課題です。「NetSkateKoban®」導入により、「AdminITy」で全端末の資産を完全に把握できるようになりました。

導入3年目からはセキュリティ対策をさらに強化し、「AdminITy」登録済の端末であってもポリシーが満たされていない端末は、ネットワークから自動遮断するようにしています。

— 「NetSkateKoban®」はセキュリティ上、どのような意味がありますか？

情報漏洩は意外に内部要因が多いものです。不正な端末の持ち込みを確実に排除することで、データの持ち出しなどを防止することができます。またセキュリティポリシーが満たされていない端末を自動遮断することで、社内LANのウィルス感染・拡大を防止するなど、セキュリティ対策を更に強固なものにすることができます。

■ ステップを踏んで導入

— 実際に「NetSkateKoban®」を導入された経験に基づいた、導入のコツを教えてください。

いきなり未登録端末を遮断するのではなく、ひとつひとつステップを踏んで、進めて行くべきですね。

弊社では「NetSkateKoban®」導入を決めてから、2~3カ月かけて、現状の端末情報を収集しました。まず、「NetSkateKoban®」の「ネットワーク地図機能」を使用してネットワークにつながっている全端末の情報を把握しました。個人所有の端末がないか、ネットワークにつながっているのはどのような端末かを把握し、会社の資産かどうかの解析をしました。解析完了後に「不要な端末は遮断する」ことを宣言して、警告期間を経てから、不要な端末を全て遮断しました。



遮断の際は自動化が重要です。人がオペレーションするとミスも生じますから。セキュリティ対策は原則人の判断ではなく、ぱったり切るほうがいい。そのためにも事前の準備期間、自動遮断の周知期間が不可欠です。

■ 今後は「AdminITy」+「NetSkateKoban®」

— 今後の展望を教えてください

端末管理は、未登録端末やセキュリティポリシーを満たさない端末を自動遮断できる「NetSkateKoban®」と、登録している端末については、しっかりと管理ができる「AdminITy」との組み合わせで完成されるものだと実感しています。

弊社ではSmartCloud（スマートクラウド）のブランド名でクラウド事業を行っています。「NetSkateKoban®」はクラウドにも対応したと聞いており、そちらにも期待しています。今後、弊社をモデルケースとして、「AdminITy」+「NetSkateKoban®」の組み合わせによる端末管理を提案していきたいと思っています。

NTTコムウェア様は

NTTグループの情報システム開発と通信ネットワークを支えてきた実績をベースにICT（情報通信技術）業界をリードするシステムインテグレータの会社です。NTTグループをはじめ、官公庁、金融、地方自治体、大学など多岐にわたる業種のお客様に対して、最適なソリューションの選定から、システムの構築、運用・保守まで、ICTに関するサービスを幅広く提供しています。

※ 取材日時 2011年9月

\* AdminITy(アドミニティ)及びSmartCloud(スマートクラウド)はNTTコムウェアの登録商標です。  
\* NetSkateKoban(ネットスケート交番)は、サイバー・ソリューションズの登録商標です。